日付	No.	時間	題目	著者	概要
3月22日(月)	1	13:00 ～ 13:25	空間の意味表現と空間機能検索	○松尾　豊, 高木　朗, 平塚　誠良, 橋田　浩一, 中島　秀之 (産業技術総合研究所　サイバーアシスト研究センター)	空間の意味を、ユーザタイプに対する機能という点から記述する。空間の機能は、空間が内部に持つ部分空間やものの性質・機能とその構造に由来する。空間の機能を、適切に記述することで、特に建物や施設内の空間において、ユーザの要求に柔軟に応える空間機能検索システムを実現することができる。
	2	13:25 ～ 13:50	文書からのキーワード抽出と関連情報の収集	○松平 正樹, 上田 俊夫, 渕上 正睦, 大沼 宏行, 森田 幸伯 (沖電気工業(株))	前回、キーワード入力に対して、オントロジーをもとに関連する情報を収集し、整理して出力するシステムの概要について報告した。本報告では、固有表現抽出技術を利用して文書からキーワードを抽出し、その意味属性に応じて情報を収集するように改良した内容について述べる。その際に起こるいくつかの問題について整理し、特に姓だけが出現する場合の個人特定の問題(「山田さん問題」と呼ぶ)について議論する。
	3	13:50 ～ 14:15	ナノテク材料技術の知識の構造化プロジェクトにおけるオントロジーの利用	○古崎　晃司1, 來村　徳信1, 渡邉　英一2, 山形 尚子2, 溝口　理一郎1 (1.大阪大学産業科学研究所, 2.(社)化学工学会 ナノマテリアセンター)	NEDOによる「材料技術の知識の構造化プロジェクト」は, 材料種を限定しない領域に共通する材料知識の基盤となるプラットフォームの開発を目指し, 様々なシステムの構築・材料知識の構造化を進めている. 本稿ではプロジェクトにおける, オントロジーの利用の枠組みについて述べる.
	4	14:15 ～ 14:40	利用者からのフィードバック情報を用いたオントロジ拡充技術	○境美樹, 佐藤宏之, 中村昌志 (NTT情報流通プラットフォーム研究所)	オントロジを利用したポータルサービスを提供する際、利用者のニーズや流行によりオントロジが変化していくことが望まる。本報告では、利用者の口コミ情報や行動履歴などのフィードバック情報を用いたオントロジ拡充技術による解決方式を提案する。更に本方式をタウンページに適用した結果を報告する。
		14:40 ～ 14:50	休憩		
	5	14:50 ～ 15:15	セマンティックグループウェア: RDFを用いたKnowWhoの実現	○井形伸之, 小櫻文彦, 片山佳則, 津田宏 ((株)富士通研究所 ITメディア研究所 言語処理研究部)	RDFを用いてグループ情報を管理するグループウェアWorkWare++を紹介する。WorkWare++では、人・文書・スケジュール、といったオブジェクト情報と各オブジェクト間の意味的な関係をRDFで表現・管理することにより、通常のグループウェア機能の他、誰がどんな仕事をしているか、誰と誰が一緒に仕事をしているか、などを検索するKnowWho機能を有することを特徴としている。
	6	15:15 ～ 15:40	製品の状態モデルを利用したSemantic Webアプリケーションの構想	○松田憲幸1, 森岡達也1, 三浦浩一1, 瀧寛和1, 安部憲広2, 堀 聡3 (1.和歌山大学大学院システム工学研究科, 2.九州工業大学情報工学部, 3.ものつくり大学)	Semantic Webの運用において、大量の既存のWeb文章を意味づけすることは、重要な課題となっている。製品の取扱を対象に、状態を表す記述(モデル)を利用することで、取扱説明書の検索や、製品操作を共有利用する手法を検討する。応用例として、ネットワーク接続している異種アクチュエーター間で、同じ状態を共有する試作機を示す。
	7	15:40 ～ 16:05	薬機能オントロジー	○吉川澄美, 松村和美, 小長谷明彦 (独立行政法人理化学研究所)	ゲノム情報など生命科学の情報が蓄積しているなか、これらの基礎情報と医薬品開発や医療などの応用知識とを結びつけるためにオントロジーの利用は不可欠である。薬物と生体物質との関係を形式化し、関係データベースに実装した。 格納された情報を使い、薬物間相互作用の予測にむすびつけた薬機能オントロジーについて紹介する。
	8	16:05 ～ 16:30	リスプによるRDFSプロセッサ	○小出誠二, 川村正則 (株式会社ギャラクシーエクスプレス)	RDF/XMLパージング機能を有し、N-Tripleフォーマットを扱うことができ、領域／値域制約、rdf:type包摂律、rdfs:subClassOf推移律を有するRDFSプロセッサを、リスプのオブジェクトシステムを用いて開発した。このプロセッサはfood.owl、wine.owlなどのOWLファイルも読み込むことができる。将来はこのプロセッサを元にOWLプロセッサを開発する。
3月23日(火)	9	9:20 ～ 09:45	セマンティック・ウェブサービス用エージェント	○小出誠二, 島田紀一 (株式会社ギャラクシーエクスプレス)	ウェブサービスとセマンティックウェブを融合したセマンティック・ウェブサービスが注目されている。セマンティックウェブ技術により、エージェントがウェブサービスを発見、起動、合成、実行、監視することが求められているが、ウェブサービス・エージェントの一般的記述や要求は明らかになっていない。本報ではエージェントがウェブサービスを自動実行するときの諸問題について考察する。
	10	09:45 ～ 10:10	Webコンテンツの機能に着目した検索結果の構造化に関する提案	○川前 徳章, 高橋 克巳 (NTT情報流通プラットフォーム研究所)	本研究はユーザの情報検索を効率化することを目的として, 情報検索システムの検索結果を構造化するための手法を提案する. 提案手法は, リンク元のWebコンテンツはリンク先のWebコンテンツに対してのアンカテキストを付けているWeb空間のハイパリンク構造に着目し, Webコンテンツの機能の推定を行い, 検索結果
	11	10:10 ～ 10:35	セマンティックWebに向けてのWebブラウザによる意味的処理のイメージ	○平松宙祥1, 三浦浩一1, 松田憲幸1, 瀧寛和1,, 安部憲広2, 堀 聡3 (1.和歌山大学大学院システム工学研究科, 2.九州工業大学情報工学部, 3.ものつくり大学)	セマンティックWebのメタデータを参照して検索を行うブラウザを開発した。メタデータの意味情報を利用して、意味検索を実現した。通常のWebとセマンティックwebを連携して検索する方式を提案する。
		10:35 ～ 10:45	休憩		
	12	10:45 ～ 11:10	知識交流を支援する文書管理ツール ″CoreLibrary″	○高梨勝敏, 佐藤俊也 ((株)日立東日本ソリューションズ)	個人の相互理解を促進するために, 文書管理ツール″CoreLibrary″を開発した。本ツールにより, 個人の知識体系を可視化し, 情報を流通させるだけでなく, 情報の背景にある知識体系も流通させることができる。
	13	11:10 ～ 11:35	テキストマイニングのための意味アノテーション	○小泉敦子, 森本康嗣 , 相薗敏子((株) 日立製作所 中央研究所　知能システム研究部)	営業日報、コールセンター応答履歴などのテキスト情報活用のためのアノテーションについて検討している。本稿では、我々が提案するテキスト分析手法について述べ、テキストの定性分析および定量分析に有用な意味アノテーションを提案する。また、期待できる効果およびアノテーションのために必要な情報について、営業日報データを対象に行った予備調査の結果を報告する。
	14	11:35 ～ 12:00	科学知マネジメントのための組織知メモリの構成	○池田　満1, 林雄介1, 落水浩一郎2, 長谷川忍3 (北陸先端科学技術大学院大学　1.知識科学研究科, 2.情報科学研究科, 3.情報科学センター)	本研究では, 科学知創造・継承活動と知の概念体系のオントロジーを構成し, それに基づいた科学知マネジメント支援システムの開発を目指している。本稿ではシステムの中核になる組織知メモリの構成を中心に, 支援システムが備える主要機能の構成について報告する。また, この研究をベースにしたソフトウェア科学知マネジメントに関する研究プロジェクトの構想を紹介する。